

令和 6 年度 定期作況報告

〈令和 6 年 9 月 20 日現在〉

地方独立行政法人北海道立総合研究機構
農業研究本部 道南農業試験場

1. 気象経過

8 月下旬：平年と比較して平均気温は 1.9℃、最高気温は 2.2℃、最低気温は 1.4℃高かった。降水量は 151.0mm で平年の 283%、日照時間は 50.1 時間で同 99%だった。

9 月上旬：平年と比較して平均気温は 1.4℃、最高気温は 3.0℃高く、最低気温は 1.0℃低かった。降水量は 4.0mm で平年の 11%、日照時間は 101.4 時間で同 191%だった。

9 月中旬：平年と比較して平均気温は 1.0℃、最高気温は 1.8℃高く、最低気温は平年並であった。降水量は 13.5mm で平年の 28%、日照時間は 48.0 時間で同 91%だった。

以上、平年に比べ平均気温は 1.4℃、最高気温は 2.3℃高く、最低気温は平年並であった。降水量は 168.5mm で平年の 122%、日照時間は 199.5 時間で同 128%だった(表 1)。

表 1 気象表

調査項目	8月下旬			9月上旬			9月中旬			平均または合計		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較
平均気温(℃)	23.8	21.9	1.9	22.3	20.9	1.4	19.5	18.5	1.0	21.9	20.5	1.4
最高気温(℃)	28.4	26.2	2.2	28.5	25.5	3.0	25.3	23.5	1.8	27.4	25.1	2.3
最低気温(℃)	19.5	18.1	1.4	15.6	16.6	▲1.0	14.3	14.0	0.3	16.5	16.3	0.2
降水量(mm)	151.0	53.4	97.6	4.0	36.0	▲32.0	13.5	48.8	▲35.3	168.5	138.2	30.3
日照時間(hr)	50.1	50.5	▲0.4	101.4	53.0	48.4	48.0	52.8	▲4.8	199.5	156.3	43.2

注 1) 観測値は北斗市のアメダスデータによる。平年値は前 10 か年の平均値である。
注 2) 表中▲印は「低」または「少」を示す。

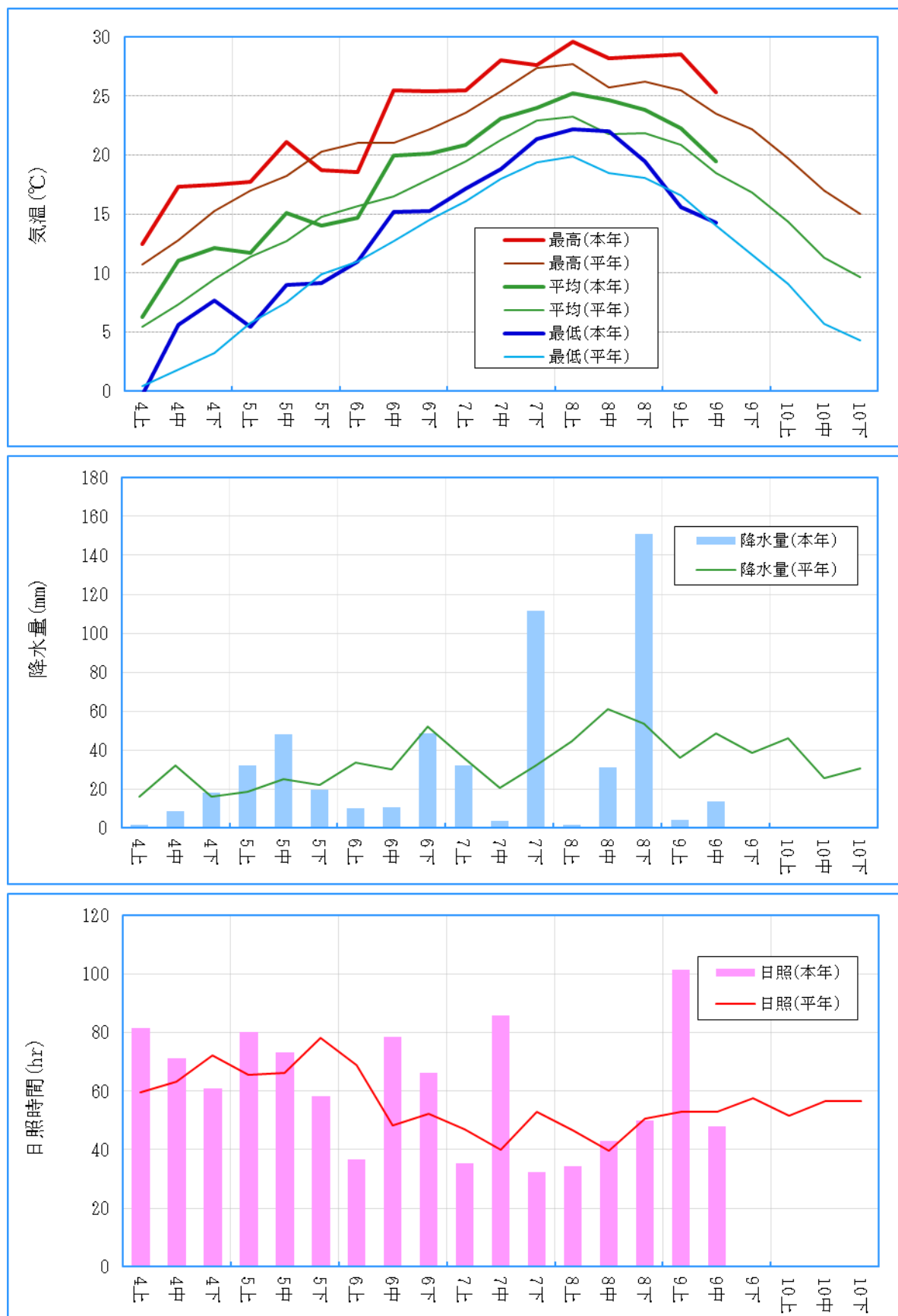


図1 気温、降水量及び日照時間の平年との比較(令和6年、北斗市)

2. 作況（水稻）

9月20日：不良

事 由：8月中旬～9月上旬にかけて、高温に推移したため、登熟は早く進み、登熟日数は「ふっくりんこ」で2日短く、「ななつぼし」で4日短かった。8月23日以降、風雨により倒伏が生じた。成熟期は「ふっくりんこ」で6日、「ななつぼし」で平年より7日早かった。「ふっくりんこ」「ななつぼし」とともに穂数は多く、一穂粒数は「ふっくりんこ」でやや多く、「ななつぼし」は平年並で、稔実歩合は「ふっくりんこ」「ななつぼし」とともに平年並であったことから、 m^2 当稔実粒数は「ふっくりんこ」で110%と多く、「ななつぼし」で103%とやや多かった。一方で登熟歩合は平年より「ふっくりんこ」で16.5ポイント、「ななつぼし」で8.4ポイント低く、かなり低い登熟歩合となった(表2)。

以上のことから、現在の作況は「不良」である。

8月20日：やや良

事 由：「ななつぼし」「ふっくりんこ」とともに、出穂期は平年より4日早かった。7月下旬～8月中旬は、高温に推移したため、登熟は進み、粒の黄熟化が進んだ。そのため本田生育調査と合わせて、成熟期の調査も行った。止葉葉数は「ふっくりんこ」で平年並、「ななつぼし」はやや多かった。草丈は平年並であった。茎数は「ふっくりんこ」で平年の105%、「ななつぼし」は平年の104%とやや多かった。また稈長は平年並で、穂長は平年より長く、穂数は「ふっくりんこ」で平年の105%、「ななつぼし」は平年の103%とやや多かった(表2)。

以上のことから、現在の作況は「やや良」である。

7月20日：平年並

事 由：幼穂形成期は「ふっくりんこ」「ななつぼし」とともに平年並であった。幼穂形成期後の7月上旬、中旬ともに高温であったため、生育は進み、止葉期は「ふっくりんこ」「ななつぼし」とともに、平年より3日早かった。「ななつぼし」の出穂期は7月20日で、平年より4日早かった。「ふっくりんこ」「ななつぼし」とともに草丈は平年より長く、葉数は平年並であった。茎数は平年より少ないが、生育が早く進んでいることを勘案し、8月20日の平年値や成熟期の穂数の平年値と比較すると、「ふっくりんこ」はやや多く、「ななつぼし」は同等であることから、平年並以上の穂数になることが考えられる(表2)。以上のことから、現在の作況は「平年並」である。

6月20日：平年並

事 由：5月下旬から6月上旬は低温で寡照に推移し、苗の活着および生育は遅れた。6月中旬は高温で多照に推移し、生育は回復した。2品種ともに草丈は平年より長く、葉数は平年並で、茎数は「ふっくりんこ」で平年よりやや少なく、「ななつぼし」でやや多かった。2品種平均で茎数は平年並であった(表2)。以上のことから、現在の作況は「平年並」である。

5月20日：やや良

事 由：播種は平年より1日遅い4月23日に行った。出芽までの日数は平年並で、出芽期は4月28

日であった。育苗期間中、4月下旬は高温で寡照、5月上旬は平年並の気温で多照、5月中旬は高温で多照であり、全体として高温でやや多照であった。移植は平年より1日遅い5月21日に行った。移植時の苗の形質において、2品種ともに草丈は平年より長く、葉数・茎数は平年より多く、地上部乾物重は平年を上回って重かった。苗の充実度を表す地上部乾物重/草丈の値も2品種ともに平年を上回っていた(表2)。以上のことから、現在の作況は「やや良」である。

注)本作況は、道南農業試験場における平年値に対する水稻の生育良否に基づいたものであり、渡島・檜山を代表するものではありません。

表2 水稻の生育

項目		品種名 /年次	ふっくりんこ			ななつぼし		
			本年	平年	比較	本年	平年	比較
生育期節	播種期	(月日)	4.23	4.22	1	4.23	4.22	1
	出芽期	(月日)	4.28	4.27	1	4.28	4.27	1
	移植期	(月日)	5.21	5.20	1	5.21	5.20	1
	幼穂形成期	(月日)	7.01	7.01	0	6.27	6.27	0
	止葉期	(月日)	7.14	7.17	▲ 3	7.12	7.15	▲ 3
	出穂期	(月日)	7.22	7.26	▲ 4	7.20	7.24	▲ 4
	成熟期	(月日)	9.09	9.15	▲ 6	9.02	9.09	▲ 7
	穂揃日数	(日)	3	7	▲ 4	3	6	▲ 3
	登熟日数	(日)	49	51	▲ 2	44	48	▲ 4
	生育日数	(日)	139	146	▲ 7	132	141	▲ 9
移植時	草丈	(cm)	15.8	13.4	2.4	14.8	13.1	1.7
	葉数	(枚)	3.8	3.3	0.5	3.8	3.3	0.5
	茎数	(本/個体)	1.67	1.28	0.39	1.40	1.06	0.34
	地上部乾物重	(g/100本)	3.72	2.72	1.00	3.86	2.62	1.24
	地上部乾物重/草丈		0.24	0.20	0.04	0.26	0.20	0.06
本田生育	草丈	6月20日	35.6	33.1	2.5	36.7	34.0	2.7
	(cm)	7月20日	84.1	78.0	6.1	88.4	80.9	7.5
		8月20日	92.3	93.5	▲ 1.2	93.1	93.4	▲ 0.3
	葉数	6月20日	7.6	7.7	▲ 0.1	7.6	7.9	▲ 0.3
	(枚)	7月20日	10.8	10.6	0.2	10.9	10.5	0.4
		8月20日	10.8	10.7	0.1	10.9	10.6	0.3
	止葉葉数	(枚)	10.8	10.7	0.1	10.9	10.6	0.3
	茎数	6月20日	515	550	▲ 35	515	478	37
	(本/㎡)	7月20日	754	811	▲ 57	650	721	▲ 71
		8月20日	746	711	35	675	651	24
成熟期	稈長	(cm)	77.1	77.9	▲ 0.8	76.7	76.1	0.6
	穂長	(cm)	17.0	16.0	1.0	17.3	16.3	1.0
	穂数	(本/㎡)	739	703	36	669	647	22
収量構成要素	一穂粒数	(粒)	50.1	47.3	2.8	50.7	51.2	▲ 0.5
	㎡当粒数	(×1000)	37.0	33.2	3.8	34.0	33.0	1.0
	稈実歩合	(%)	92.7	94.1	▲ 1.4	94.8	94.5	0.3
	㎡当稈実粒数	(×1000)	34.3	31.3	3.0	32.2	31.2	1.0
	同上平年比		110	100	0	103	100	3
	登熟歩合	(%)	68.6	85.1	▲ 16.5	73.2	81.6	▲ 8.4
	粒摺歩合	(%)		76.1			78.4	
	屑米重	(kg/a)		5.0			3.2	
	屑米歩合	(%)		7.7			5.0	
	精玄米千粒重	(g)		22.7			21.7	
収量	わら重	(kg/a)		67.7			68.1	
	精粒重	(kg/a)		78.5			77.0	
	精玄米重	(kg/a)		59.7			60.4	
	収量平年比	(%)		100			100	
	玄米検査等級	(等)		2上			1下	

注1) 平年値は前7年間の令和4年(2022年、最豊年)、平成30年(2018年、最凶年)を除く5年の平均値を用いた。

注2) 苗は中苗紙筒、栽植密度は25.3株/㎡(33cm×12cm)、1株3本植え。

注3) 本田にはN、P₂O₅、K₂O成分をそれぞれ7.5、9.1、6.5(kg/10a)施用した。

注4) 篩目は1.90mmを使用し、精玄米重、千粒重とも水分15.0%に補正した。

注5) 登熟歩合は比重1.06の塩水で調査した。

注6) 比較の▲印は「減」または「早」を示す。